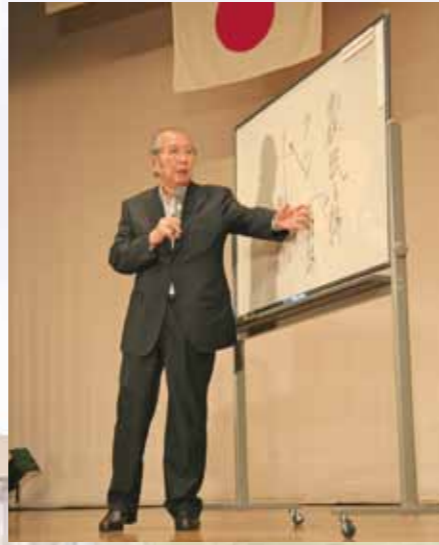




全国報徳サミット桜川市大会は、会場のシトラスに総勢700余人が参加して盛大に開催されました。



「歴史に学ぶまちづくり」をテーマに基調講演をする文芸作家：童門冬二氏



中田市長から次期サミット開催地の御殿場市の若林市長へ金次郎像を引き継ぎました。



大國小4年生の児童らによる学習発表では、青木堰完成までの劇が上演されました。

今サミット開催にあわせ、常陸大和ライオンズクラブの皆さんから市に、みかげ石の金次郎像が寄贈されました。

会場内には全国報徳研究市町村協議会に加盟する真岡市の皆さんから震災被災地の方への励ましの絵手紙が展示されました。



次に、石川教育長から大会宣言文が読み上げられ、満場一致で採択されました。閉会として、二宮金次郎のブロンズ像が次期開催地の静岡県御殿場市若林市長へ手渡され、2日間に渡った「第17回全国報徳サミット 桜川市大会」は、幕を閉じました。

その後、大國・岩瀬小学校の児童による、二宮尊徳にまつわる劇や研究成果の発表がありました。まちづくりパネルディスカッションでは、本協議会加盟市町の首長などから、報徳仕法を取り入れたまちづくりなどの事例が述べられました。文芸作家 童門冬二氏を講師に迎えた基調講演は、「歴史に学ぶまちづくり」をテーマに行われ、参加された皆さんは、真剣に聴き入っていました。

# 桜川市大会

# 第17回 全国報徳サミット

全国報徳研究市町村協議会加盟の18市町村  
(11市・6町・1村)

10月21日（金）22日（土）の両日、大和ふれあいセンター「シトラス」などの会場に700余人の皆様をお迎えし、「第17回全国報徳サミット 桜川市大会」が開催されました。今サミットには、先の東日本大震災で甚大な被害を受けた、福島県の加盟市町をはじめ、遠路より多くの皆様に桜川市にお越しいただきました。また、サミット開催にあたり多くのボランティア・関係者の皆様にご協力をいただき、2日間に渡った、サミットを盛況のうちを終えることができました。ありがとうございました。



青木堰の木材を使い建立された尊徳ゆかりの寺「薬王寺」の門の前で、地元郷土史家の館野義久氏から説明を受ける全国報徳研究市町村協議会加盟市町の皆さん



全国報徳研究市町村協議会総会（写真右）と交流会（同左）の様様

## 大会の概要

10月21日（金）

大和ふれあいセンター「シトラス」に参集したサミット参加市町関係者（7市2町）による、市内の尊徳史跡などの見学が行われました。

参加した約30人の皆さんは、地元郷土史家の館野義久氏から、尊徳が旧青木村に築堰した「青木堰」跡をはじめ、薬王寺や当時の青木堰の絵図面（青木地区／廣澤光一郎氏所蔵）などの説明を受けながら、江戸時代末期の尊徳の足跡をたどりました。

その後、席を移して行われた「全国報徳研究市町村協議会総会」には、10市4町から首長・事務局などが出席。大会宣言や次回開催地について協議が行われました。また、東日本大震災の被災地の子どもたちへの支援策の提言もなされ、満場一致で了承されました。

総会後の交流会では、郷土芸能の真壁白井座人形浄瑠璃や大曾根加波山囃子保存会のお囃子、歌謡ショーなどが賑やかに繰り広げられ、参加自治体の交流が図られました。

10月22日（土）

サミット当日は、華やかな「大和むつみ会」の大正琴の演奏と「劇団どてかぼちゃ」の公演で幕が開き、サミット実行委員会会長の中田市長と副会長の相田市議会議長から歓迎のことばの後、来賓の方から祝辞が述べられました。

その後、大國・岩瀬小学校の児童による、二宮尊徳にまつわる劇や研究成果の発表がありました。まちづくりパネルディスカッションでは、本協議会加盟市町の首長などから、報徳仕法を取り入れたまちづくりなどの事例が述べられました。

文芸作家 童門冬二氏を講師に迎えた基調講演は、「歴史に学ぶまちづくり」をテーマに行われ、参加された皆さんは、真剣に聴き入っていました。

次に、石川教育長から大会宣言文が読み上げられ、満場一致で採択されました。

閉会として、二宮金次郎のブロンズ像が次期開催地の静岡県御殿場市若林市長へ手渡され、2日間に渡った「第17回全国報徳サミット 桜川市大会」は、幕を閉じました。